当時

十三期生　池野　直志

卓球部創立三十周年おめでとうございます。最早ＯＢとしても古い部類に入ったかと思うと感無量です。

私がキャプテンの任を勤めさせていただいたのは昭和三十四年一月～十二月のことで、当時は十月の役員改選後、二カ月間の見習い期間がありました。偉大な先輩荻村さんが世界チャンピオンになられたのが、それより二、三年前のことだったと思いますが、中学時代から卓球をやっていた私達は、憧れて入部したものでした。しかし、同期の連中は、勉強好きと遊び好きが揃っており、卓球の成績は、団体戦のベストが都の32、個人戦でエースの中林君が16というところでした。それでも区内ではまあまあで、秋の区民大会には専大京王を破って優勝し、第一回の第三学区十都立戦では中野工業に打ち勝って最初の栄冠に輝いた楽しい思い出があります。この都立戦は今でも続いているとお聞きしましたが、組織的な運営が始められたのは、私達の時からでした。この母体には、八都立戦というものがあり、未加盟だった西高と杉並高校が加盟を申し込んだところ、「お宅らは強過ぎるから入らないでくれ」と言われ、何回も会議を開いて、十都立戦を設立したというエピソードがあります。後にも先にも、私達のように弱い時代でこんなに笑いたくなるような痛快な話はこれっきりです。

ここまで書いてきたら、当時の様子を思い出し、最後に加盟が決まり、新しい組織が発足した井草高校の帰り道に、女子のキャプテンとずぶぬれになって自転車を走らせた情景が浮かんできました。余談になりますが、当時の卓球部には比較的女性が多く、現在ＯＢ会の幹事長をお願いしている小川君と共に、盛んに部内ハイキング等をやったものでした。しかし、楽しい部を作ろうと当時努力したつもりでも、今日のＯＢ会に14期、15期の方々がほとんど出席されないということは、運動部はまず強くなければいけないという根本的な精神を忘れていたのだと深く反省しています。

当時私がもっとも念願したことは、何とかして卓球部の合宿ができないかということでした。西高会館はまだ設立されていませんでしたが、どこかに良い場所をみつけて、たとえ三～四日でもいいから卓球一色の生活をしてみたいと思ったものでした。その頃、サッカー部は、夏休みに軽井沢で合宿をやっていましたし、国体出場に意気上る庭球部もよく合宿をしていました。しかし、私の在高時代にはこの夢は果たせず、現在のような合宿がおこなわれるようになったのは、西高会館が建てられた後の、昭和三十六年の夏からでした。

以上とりとめもなく、当時の模様を記してきましたが、中学一年から大学一年までの卓球生活の中で、三年間を過した西高卓球部時代がもっとも懐しく思われ、同期の方々、あるいは先輩、後輩の方々と又OB会でお会いできる日を楽しみにしております。

▲昭和35年春　卓球部ハイキング（於多摩湖）

卓球と私

十五期生　遠藤　孝子

四十九年春、アジア選手権が横浜で行なわれた時のことである。私の住む町田市の市長が横浜市長と懇意であるということから、大会名誉役員をひきうけられ、その上、当地で中国選手団を招いて大会を行なう計画を進めていた。日中一流選手の友好試合、中国選手同志の模範試合ばかりでなく、地元選手との交流試合も出来るかもしれないと聞いて、胸をときめかせた。それというのも、ちょうどこの話がもち上がる一年ほど前から町田市の大会で一応の成績を納めていたので、出場の機会があるかもしれないという期待と不安があったからだ。中国選手と一戦交えることなど、学生時代にさえ夢にも思わなかったことである。この歳になって私などが出るよりも若い人を……という気持ちと、やってみたいという気持ちの入り交じりであった。ともかく男女各六名の地元メンバーに選ばれ、そして当日、大会期間中にも拘わらず、郗恩庭、李富栄、余錦佳選手ら総々たるメンバーが来られたのである。